

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103664		
法人名	有限会社 トータルケア果の実		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	松山市西垣生町5-75番地6 (電話) 089-971-8705		
管理者	山本 誠一		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 2 月 6 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 26 日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 9 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 14 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	20 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 200 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 9 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	5 名	要介護 2	4 名
要介護 3	6 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 82.5 歳	最低 67 歳	最高 93 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは工場と畑の間に住宅が点在する郊外に立地している。敷地がゆったりとしているため、家庭菜園のほか温室まであり、季節の食材が食卓にのぼることもある。広々とした木製デッキもあり、ちょっとしたリゾート感も味わえる。3年ほど前から、外気浴や散歩など戸外に積極的に出る機会を多くもてるよう取り組みをすすめ、ホームに活気が出てきたということを職員は実感している。また、利用者の認知やコミュニケーションの機能を刺激するための学習療法や、口から栄養をとるケアの基本を実践するために嚥下体操を取り入れるなど、利用者へのサービス向上に余念がない。医療面では専任の看護師を雇用し、日々の健康管理、医療との連携などに取り組んでいる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回評価では、運営推進会議や同業者との交流、災害対策などについてさらなる取り組みを期待されたが、運営推進会議や災害対策では地域住民や民生委員の参加を促しての話し合いに取り組み、また同業者との交流では、地域包括支援センターとの連携に力を入れている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員全員で分担して自己評価に取り組み、ユニット責任者がまとめている。記載内容からユニットごとの個性も読み取れ、真摯に取り組んでいることがうかがえる。自己評価を自らのケアの見直しとサービス向上への視点として捉えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は、やや形式に重きを置いている状況があり、報告が中心となっているため利用者のケアの質向上に直結する話題は多いとは言えない。管理者が平成21年1月に交替したことを契機に、運営方法の見直しを検討している。運営推進会議が利用者と地域のつながりの場となることが期待される。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

意見箱を設置しているが、家族からの意見や苦情等は直接的なコミュニケーションにより聞きとることを基本としている。話し上手な職員が多く、家族が話を切り出しやすい雰囲気がある。新任である管理者も家族と信頼関係を構築するために話し合う機会を増やしたいとの意欲があり、家族の意見を運営に反映する取り組みを実践している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

周辺に住宅が余り多くないこともあり、幼稚園の運動会や地区の催し物への参加など、地域との交流はまだ限定的でこれから取り組みをすすめる段階である。しかし、散歩や買い物の時に積極的にあいさつを交わすようにすることで、近所付き合いという関係の構築に糸口を見出している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームころ
(ユニット名)	あんず
記入者(管理者)	
氏名	伊藤勇希 伊藤典子(山本誠一)
評価完了日	平成 21 年 2 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「信頼・和・安心」の事業所独自の理念を作っている。又、玄関・リビングに見やすく提示している。 (外部評価) 昨年度、地域密着型サービスに移行した際に理念の見直しを行っている。利用者が地域と共に生活を送れるよう「地域」の文字を理念の中に組み込み、職員だけでなく家族もその意図が意識できるように取り組んでいる。	※	理念に応じたサービスがされているか、ミーティングを通して確認していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員の目につく場所に提示し実現に向けて業務を行っている。 (外部評価) 管理者が交替してまだ1か月程度しか経過していないため、ホームの全体を把握する段階である。理念についても運営者との話し合いは行われているが、職員との共有化が十分できているとは言えない。	※	昨年度に見直した理念は、全職員で言葉の一つひとつを丁寧に選び出した経緯がある。そのため、管理者には、言葉に含まれる思いなどを職員と話し合う機会を持つことを期待したい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 利用者・家族が集うリビングに提示し理解し親しんで頂けるようにしている。地域に対しては運営推進会議を通し理解を深めて頂く。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の際などの近隣の方々への挨拶。又、地域行事への参加や日常的な交流を大切にしている。	※	利用者も出来る事への参加及び検討をしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の保育園の運動会に参加したりしている。昨年に引き続き近隣の中学生が職場体験の場として10名程2日間に渡り来られ、地域密着のグループホームのあり方としての理解を深めて頂いた。 (外部評価) 町工場と畑の間に住宅が点在している地域であるが、開設以来、地区の活動には積極的に参加している。幼稚園の運動会へも参加しているが、地域とは催し物を通しての交流の段階であり、近所付き合いという関係ができていとは言えない。	※	散歩などで出会った方と挨拶を交わしたり、イベントを通じての触れ合いなどで、地域住民としての意識が根付いてきている。近隣の方がホームに気軽に立ち寄ってもらえる関係づくりの基礎が固まった時期でもあると思われるので、今後は近所づきあいを意識した活動に取り組んでいくことを望みたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 事業所の力を活かし地域の一員として何か役に立てるよう今後ホーム全体で考え取り組んでいきたい。	※	積極的に地域の行事や集まりには出席するようにしたい。全体ミーティング等で話し合っていきたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回までの改善事項は、順次対応し改善している。又、ミーティングを通し職員全員が外部評価を受ける意義を理解している。 (外部評価) ホームでの自己評価は回数を重ねており、その意義等は理解されている。職員ひとり一人が自己評価を行った上で、ユニット毎に話し合い、評価票を作成している。この作業を、ケアの質について話し合う機会と捉えており、有用に活用されている。	※	職員の質の向上につなげていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 3ヶ月に1回、運営推進会議を開き家族や地域の方々との意見交換・交流・理解を深めている。その際頂いた貴重な意見をサービスの質の向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 会議の開催ということで議題に苦慮しており、担当者の話からも形式に重きを置いている状況がうかがえる。そのため、利用者のケアの質向上に直結してる話題がやや少なく、地域との交流を深めるための会議になっているとは言えない。</p>	※	運営推進会議の目的は利用者へのサービスの向上であるため、形式にとらわれず肩の力を抜いた開催を期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<p>(自己評価) 包括支援センターの事業にも進んで参加している。松山市社会福祉協議会の職員の方に講習も来て頂き、拘束のないケアについて勉強会を開いた。</p> <p>(外部評価) 市担当者だけでなく、地域包括支援センターや市社協職員など広範囲な機関との連携に努めている。新しい管理者も福祉職としてのキャリアが長く、様々な関係者との繋がりを持っていることから、更なる連携の強化が期待できる。</p>		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価) 外部から講師を招き勉強会を行なう。</p>	※	学ぶ機会を設ける。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価) 職員間にて学ぶ機会をもち十分に注意し日々防止に努めている。</p>	※	研修等学ぶ機会を増やしていき、理解を深めるようにすると共に十分配慮をし防止に努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結んだり解約する際は時間をかけて不安や疑問点の説明をし、理解・納得の上で行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置。対応の一本化を行い真に受け止め早期に解決するよう努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ころ便り・手紙・電話・面接時を利用し報告している。金銭管理は出納帳を作成し管理・報告している。 <hr/> (外部評価) 家族には、金銭出納帳の確認やホーム便りなどで利用者の暮らしぶりを報告しているが、細かなニュアンスが伝わりにくいことから、来訪時などのコミュニケーションに力を入れている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 役員に苦情受付を設け連絡先の配布・意見箱等を設けている。苦情があった際は問題解決に努めている。 <hr/> (外部評価) 家族からの意見や苦情等を聞くため、意見箱を設置しているが、実績はほとんどない。意見箱の設置は継続しているが、家族への報告と同様に、来訪時等に丁寧に話を聞くことを対応の基本としている。話し上手な職員が多く、家族が話を切り出しやすい雰囲気がある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度のミーティングで意見を出し合い話し合っている。		意見が反映されるよう取り組んでいきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ユニット長がシフト表の作成後管理者・運営者が再確認している。決められたローテーションの中から調整の必要がある場合は変更可能で柔軟な対応ができるよう調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動はほとんどない。利用者にダメージを与えないように異動は最小限にしている。 (外部評価) 管理者や介護支援専門員の交代が多い傾向にあるが、職員の異動や離職者は少ない。管理者等の交代に関しては、ベテラン職員が利用者との間を上手く繋いでおり、日常生活に影響がでないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 希望の研修等には参加できるような体制を整えているが、もっと積極的にすすめていきたい。 (外部評価) ホームは研修への参加を支援しており、職員も積極的に取り組んでいる。しかし、日常的な業務の中で育成、職員のスキルに応じて責任を分担していく取り組みが少ない。日々の業務を通しての職員の育成は重要な視点であるが、積極的に行われているとは言えない。	※	職員研修に場をもっと増やしていきたい。 職員には中堅者も少なくなく、その視点をケアに活かすことは職員育成に繋がり、モチベーション向上にもなるため、介護計画の素案作成など責任ある職務を任せるなどの取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価・ホーム便り・他施設の祭りへの参加交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。	※	情報交換を行い他施設との交流を増やしていきたい。
			(外部評価) 同法人のホーム関係者とのネットワークが主となっている。その他の取り組みでは、地域包括支援センターが管轄内のグループホーム連絡会を立ち上げている。しかし、現在は取り組みが始まった段階であり、ネットワークが深まり、サービスの質の向上につながる取り組みがなされているとまでは言えない。	※	個々のホームの自助努力のみではネットワークの構築には限界がある。地域包括支援センターでの地域ケア会議等を通じたネットワーク構築等に取り組むことを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務を組む際、希望の休みが取れるよう配慮する。	※	有給休暇の取得
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 個々の職員の資質向上に努める。個人に合わせた指導・助言を行い努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 生活歴・ADL病歴などを把握し、一人一人に合わせたケアプラン作成を行う。傾聴の姿勢を忘れず真に受け止める。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者にも家族にも安心して利用して頂けるよう、十分に傾聴する機会をつくり信頼関係を築けるようにする。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に家族が必要としているものを見極め本人の自己決定を含めた対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前にアセスメントシートなどで十分にその人の生活歴を把握し、具体的な介護計画を説明したうえで利用者・家族の納得のもと支援している。 (外部評価) デイサービス等を行っていないため、見学後に即入居する機会が多い。そのため、利用者が安心できる雰囲気づくりに力を入れている。職員が行うだけでなく、同じ生活者としての利用者との関係づくりも重要と考えており、その組み合わせなどに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の出来る限りの可能性を考え、一緒に支え合う関係づくりに配慮している。 (外部評価) 職員はケアを通して利用者の歩んできた人生を垣間見ており、それぞれの人生観にも耳を傾けている。それが自分の生き方に影響を与えていることを実感しており、精神的なケアを受けている場合もあると感じている。しかし、これについて職員間での話し合いの場は少なく、共有できているとまでは言えない。	※	利用者からの精神的なケアを感じるまでには、ある程度の期間や経験が必要になる。また、これらのことについて職員間で話し合う機会も少ないことから、共有が難しい。ミーティング時などで議題として取り上げるなどして、新任者に対するアドバイスや共有化に努めることを期待したい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の立場をしっかりと理解した上でゆっくり話し合いをし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 電話や面会、外出や外泊など本人とのよりよい関係が保てるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が馴染みとしている人との電話や面会・外出・外泊。又、本人が馴染みとしている場にドライブに行ったりして大切にしている。定期的な墓参りなど関係が途切れることのないよう支援に努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) レクリエーションや行事参加、白昼の散歩などを通し孤立せず関わり合う機会がもてるよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 相談できやすい環境を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から利用者の表情の変化や言葉からの思いや意向の把握に努めている。その上で利用者の自己決定を優先させている。 (外部評価) 職員は利用者とのコミュニケーションを図ることをケアの重点に置いている。コミュニケーションとは、会話だけでなく利用者の仕草や表情などの情報も含めて捉え、それらを汲み取ることに努め、思いや意向を把握するケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族等から話を伺ったり、アセスメントシートなどで生活歴やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや心身状態の変化等を見逃さずことなく把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日昼のミニミーティングで個々の気づきや意見を持ち寄り、面会に来られた家族等の意見を大切に、介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は全職員で話し合っているが、ユニット責任者の主導で行われている傾向があり、全員の意見や思いが集約されている介護計画とまでは言えない。	※	利用者のモニタリングなどは職員を担当制にしているため、介護計画の素案やモニタリングの集約なども担当職員が行ったり、ミーティングの進行を担当職員が行う等の取組みを期待したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1度介護計画の評価を行い利用者の状態に応じた計画内容について本人・家族の承諾や意向を確認している。又、3ヶ月以内であっても変更があった際は家族に電話で報告し現状に即した介護計画の見直しをしている。 (外部評価) 介護計画は3か月ごと、また、急変等があった場合はその都度見直ししている。見直しのため、モニタリングのチェックを週1回ユニット責任者が行っているが、介護目標とチェック項目の関連がうすい面がある。また、評価は職員の主観が中心となっている面もあり、介護計画の具体的な評価になっているとまでは言えない。	※	毎週金曜日に出勤しているスタッフ間で話し合い、ケアプランチェックを行い偏った意見にならないよう工夫しながら取り組んでいる。 介護目標と直結する記録となるよう介護日誌等の記載方法を見直すことを期待したい。介護日誌を時間軸に沿ったものに移行すると、視覚的な把握も可能と思われる。また、データ化することによって介護計画とも関連づけることが可能と考えられるので、取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を個人記録に記入し、排泄チェック表などと照らし合わせている。それを基に介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 訪問介護ステーションを医療連携を結び定期的に集団・個別のリハビリを行えている。 (外部評価) 単独のホームであるためハード面の機能が整っているとは言えないが、管理者が専任であることで利用者の受診支援や送迎などの細やかな支援を行えている。また、職員は利用者の認知機能の維持向上のために学習療法等に積極的に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員・警察の方等に運営推進会議に参加して頂いている。定期的にボランティアの方を招き様々な出し物をして頂き、楽しい時間を過ごしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の美容室と連携を取り送迎もして頂きサービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 包括の相談窓口で対応困難な場合や市・県・病院その他の相談窓口が分からない時等、電話にて相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者・家族の希望を大切に、主治医の確認を行い、受診・往診などその人に合った適切な医療を受けられるよう支援している。 (外部評価) かかりつけ医は利用者の希望を優先している。医療面の支援は看護師が担当しており、専門的な連携もスムーズに行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関の先生は認知症に詳しく適切な指示や助言をしてくださっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員が居り、健康管理や医療面での相談を24時間体制で行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には本人への支援方法など情報を家族と相談しながら医療機関に提供している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族等に入所時に緊急時の対応や重度化した場合のご意向等伺っている。家族と繰り返し話し合いを行い、それを基に全職員と連携をとり支援に取り組んでいる。 (外部評価) 口から栄養を摂取できることをホームで生活する基準としており、職員はもとより家族等とも話し合いを行っている。また、身体的な介護については、医療的ケアが必要でない場合は、重度化しても共に生活を継続することを検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者・家族のご意向を踏まえて主治医のもとチームケアに取り組めるよう努めていきたい。	※	今後も協力医と常に連携を図りながら支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 新しい入居施設に対して十分な情報提供をし、ダメージを防ぐことに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 排泄の誘導の際プライバシーを尊重した声掛けや対応に心掛けている。どんな小さな情報も大切に扱い対応する。 (外部評価) 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、言葉かけや対応には十分注意している。また、個人記録類は専用の部屋で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿ったケアに努め、自己決定による場面の働きかけの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 常に利用者が何を希望されているか考えながら行動し気配りのあるケアに努めている。 (外部評価) ホームとして一日の生活スケジュールはあるが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先するような支援を心がけている。外出の機会を多くすると利用者が積極的になったという実績を踏まえ、外気浴を重視している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容は本人の希望に合わせて個々に支援するように努めている。		外出が困難な方は、移動理髪店を利用している。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の買出しや、食器拭きなどの片付け等個々の状態に応じて声掛けし一緒に行ってる。 (外部評価) 口から食べることで元気になるという思いのもと、利用者のペースに合わせて食事をしている。職員は多くの利用者に声をかけることで、食事が楽しくなるような雰囲気づくりに努めている。他人の食事につき箸を出してしまう利用者にも、職員が間に入って否定せずにゆっくりと対応しており、ケアの専門性の高さが感じられた。	※	片付け等だけではなく調理やおやつ作りへの参加の声掛けを増やしていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 毎日10時のおやつ時に個々に飲みたいものを伺い、一人一人の好みの飲物を楽しんで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ポータブル介助・トイレ誘導など、一人一人に合わせた排泄の支援を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴希望を確認し、一人一人が楽しめるよう支援している。又、入浴剤を日ごとに変え気分転換を図っている。 (外部評価) 入浴時間は自由であるが、職員配置や利用者の希望などで慣習的になっている。入浴を嫌がる傾向のある利用者にも、あの手この手の工夫で入浴を促している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 気持ちよく休んだり、休息したり、眠れる様それぞれのペースに合わせた安眠の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴を元に個々の役割や能力を活かし、出来る事を支援し生きがいをもてるようにする。 (外部評価) 役割などを支援するために利用者の生活歴を重視しており、入浴や排泄、散歩など一対一で行う支援の際に積極的に生活歴を聞き取るよう心がけている。しかし、その内容はミーティングでの話し合いと介護記録に記載する程度で、職員全員が共有しているとまでは言えない。	※	職員は利用者の話を丁寧に聞きとっているため、情報は数多く持っている。情報は財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、専用のファイルなどで全職員が共有できるよう、記録用紙の見直し等に取り組むことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の利用者のご自身で金銭管理行い、買い物・外出の際はご自身で支払をして頂くなど、力に応じた支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 季節に応じてドライブ・散歩などに出かけ自然や人との触れ合いも大切にしている。 (外部評価) 利用者の生活のリズムを保つために、散歩などの外気浴を重視している。約3年前から外出の機会を多くもてるよう意識して取り組んだ結果、利用者がはつらつとしてきたことを実感しているため、外出支援については積極的である。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 気分転換を図る為ドライブを企画したり、動物園・菊花展・苺狩りなど家族同行の外出の機会を設けている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じていつでも利用できるようにしております。又、自室にてゆったりと電話して頂くためにコードレスフォンを使用している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも気軽に訪問して頂けるよう時間の制限などせず支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束などのケアを理解しており、束縛するケアは職員一同行っていない。		介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為の再確認
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 心理的な不安・閉塞感を感じさせない様日中施錠していない。玄関手前にチャイムを設置しホーム外への徘徊防止に努めている。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には施錠していない。職員が協力しあって見守り、利用者の安全を確保している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はリビングで過ごされる時が多い。自室で過ごされている利用者にはロックをし訪室プライバシーも配慮しつつ、利用者のいる場所・様子を把握している。又、夜間2時間ごとに訪室し安否確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品の保管は錠のついている部屋の戸棚に保管している。工具類・裁縫道具・はさみ等は必要に応じて注意を促し見守り対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故防止策の話し合いを職員間で努めている。利用者が安全に暮らせるよう取り組んでいる。	※	事故防止策の話し合いを講じているが、職員の意識に差があるので意識の統一をしたい。知識向上の為積極的に研修に参加していきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に消防職員の方を招いて救命救急法や初期対応についての講習を職員一同受けている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害時の備蓄品の準備や家族への連絡網・介助の有無や近隣の避難場所の把握が出来ている。 (外部評価) 消防署と連携しての避難訓練を年1回行っている。運営推進会議でも地域との協力体制を構築するため働きかけている。開設から6年目を迎え、地域の社会資源としての活動が求められる段階であるため、今後の検討が求められる。	※	地域の方と災害時についての具体的な話し合いを通して協力を得られるよう働きかけていきたい。 ホームには高齢者介護の設備や専門スタッフが整っており、災害時の緊急避難場所としての役割を果たすことは地域の福祉拠点としては重要である。地域と良い関係が構築できているので、職員や家族を交えて話し合いをすすめていくことを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者一人一人に予測されるリスクについて話し合い、状態の変化に応じて報告・説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや排泄チェック職員間の申し送りや状態の把握に加え、顔色や様子や体調の変化や異常の早期発見に努めている。		今後も利用者の体調変化に迅速に対応できるよう努めたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方薬の説明書を読み、薬への理解に努めている。薬情報に変化がある場合は口答での申し送りと申し送りノートへの記録を通して内容を把握し対応している。		薬の変更があった際には30分～3時間程度顔色や体調の変化がないか留意し要見守りを行う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表に排便の状況を記入し把握。散歩や体操等で身体を動かす働きかけ、水分摂取・繊維質の多い食品（バナナジュース）など摂取するように努めている。		今後は繊維質の物を好まない利用者にも積極的に摂取してもらえるように努めたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行う。又、ご自身で出来ない方は声掛けし支援している。一人一人に合ったハブラシを使用し、義歯の方はポリドントを使用し口腔内の衛生に努めている。	※	定期的に提携を結んでいる歯科に歯科検診を行ってもらおうよう進めていきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分の摂取量を記録し、必要量が確保できるよう支援している。季節の食材を利用したバランスの取れた献立を立てるよう工夫し、食事前には嚥下体操をすることで飲み込む力の訓練をしている。 (外部評価) カロリー表などを参考に、栄養バランスに配慮した食事を提供している。口から栄養を摂取するというホームの基本的な方針のもと、刻み食やペースト食にも対応している。また、水分摂取にも配慮してチェック表を整備している。		減塩の必要な方に減塩醤油を使用していただいている。カリウム制限のある方が居られる為、スタッフ全員が食品のカリウム量を把握出来る様キッチンに食品カリウム表を貼ってある。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 外出後の帰所時に手洗い・うがいを心掛けている。ホーム内に消毒液を設置している。感染症に関して予防マニュアルがあり実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 在庫チェックを行い、賞味期限切れがないか点検している。又、調理器具・布巾・まな板・包丁等は塩素酸ナトリウムを使用し毎日消毒を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに花壇を設置しベランダにはイルミネーションを取り付けることによって地域の方々に親しみやすさを感じてもらえるよう工夫している。又、玄関も美化清掃に徹底し利用者に安心して出入り頂けるよう努めている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が不快にならない様な共用空間づくりに配慮しており、時にみんなが集うリビングにはソファを置いたり畳スペースを設け居心地よく過ごしていただけるように工夫している。 (外部評価) ホームの造りは全体的にゆったりしており、利用者のくつろぐ場所が点在している。共用スペースに直結しているデッキも広く取られており、気軽に外気浴が楽しめる。また、テレビのコーナーがダイニングに一角に設えており、うまく空間を使い分けている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファがありベランダや玄関には長椅子を設置し、利用者同士のコミュニケーションが図れる環境作りをしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使っていた家具等の持ち込みや大切な写真を飾ることで利用者に安心感をもたせ居心地よく過ごせるようにしている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 各居室・共同空間の換気の徹底を行っている。又、リビング各居室には冷暖房を設置しており外気温との差を感じないようその都度調整を行っている。		リビングや廊下・居室に床暖房の設備が設置されている。乾燥防止の為、加湿器を使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手摺を設備しているので利用者の必要に応じて手摺を利用してもらう。既存の住宅環境を職員は十分に把握して、利用者が自立した生活が送れるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各自居室入口に写真付の表札を設置したり、便所・浴槽等は札を貼ることによって混乱を取除き理解し安心して生活を送れるようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダにはウッドデッキを設備している。利用者が日光浴や土いじりができるようになっており、時にはおやつ作りや餅つきなどに活用されている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入所の際のアセスメントシートの意向、そして現在の利用者一人一人の会話の中で知り得る思いや願いを把握し職員同士が情報の共有をし意向を掴むようになっていく必要がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食の時間やおやつ時間は職員が利用者の席の間に座り談話をしながらゆったりと過ごせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人一人のその人らしさを大切にし、無理な誘導・声掛けなどでペースを崩さないよう、個々の思いを大切に支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一緒に支え合う関係作りが出来ている為、職員が入り日常生活の支援を行うことで嬉しそうな表情を見せたり言葉を掛けられたりされる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入浴の際など、利用者と職員が一対一で関わる大切なコミュニケーション時間を利用し、行きたい所などを伺い それに沿った外出予定をなるべく増やしてはいるが、市外などになると難しく全ては叶えられない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	受診等は利用者や家族が希望される病院を受診されている。訪問看護ステーションとの連携体制を結びリハビリなどにも力を入れている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療面は希望される病院（入所前から通院してた病院）へお連れしたりと柔軟な支援が出来ているが、その他にも もっと多機能性を活かした支援ができるように考えなければならない。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の面会時に近況報告をすると同時に家族の意向や不安な点などはないか伺っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに ④ ほとんどない	近隣の幼稚園生の祝い事の訪問（敬老会・クリスマス会）や、中学校の職場体験学習など、一定の時期だけのものなので今後増えていくよう努力していきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	地域包括支援センターの方や民生委員の方など少しずつではあるが繋がりも広がっている。これからも地域の住民の方や理解者が増えていくよう努めていきたい。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	退職される方も多く勤務体制に無理が生じることも多々あり、その為希望の休みが取りにくい等でストレスを抱えている職員も少なくない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自立した方が多く意思表示がしっかりとされている為、利用者の希望に副うよう努めているが職員体制上副えないこともある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会や電話の際に暮らしぶりなどをお伝えすると「これからお任せします。」「嬉しいです。」「ありがとうございます。」等と言って頂いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

一人一人と関わるコミュニケーションの時間を大切にしており、一対一で職員としてではなく家族できるように共有時間を作り信頼ある関係を大事にしています。10時のおやつ後は、利用者の体調に留意しながらレクリエーションの時間をつくり計算ドリルや手作りの居室用カレンダーの作成など様々なことに取り組んでいます。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームころ
(ユニット名)	かりん
記入者(管理者)	
氏名	長朗代 伊藤典子 (山本誠一)
評価完了日	平成 21 年 2 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「和」「安心」「信頼」の理念をリビングに提示しスタッフ全員が共有し合えるようにしている。 (外部評価) 昨年度、地域密着型サービスに移行した際に理念の見直しを行っている。利用者が地域と共に生活を送れるよう「地域」の文字を理念の中に組み込み、職員だけでなく家族もその意図が意識できるように取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員トイレに理念を提示しスタッフ一人一人が忘れない様実現に向けて業務を行っている。 (外部評価) 管理者が交替してまだ1か月程度しか経過していないため、ホームの全体を把握する段階である。理念についても運営者との話し合いは行われているが、職員との共有化が十分できているとは言えない。	※	昨年度に見直した理念は、全職員で言葉の一つひとつを丁寧に選び出した経緯がある。そのため、管理者には、言葉に含まれる思いなどを職員と話し合う機会を持つことを期待したい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の時出合った隣近所の人との挨拶は積極的に行っている。	※	気軽に立ち寄ってもらう様に日常的な付き合いをしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 9月に行われる敬老会に参加、秋祭り（神輿）地域住民との触れ合い、地域のお祭り（鍵谷祭）に参加した。 (外部評価) 町工場と畑の間に住宅が点在している地域であるが、開設以来、地区の活動には積極的に参加している。幼稚園の運動会へも参加しているが、地域とは催し物を通しての交流の段階であり、近所付き合いという関係ができていとは言えない。	※	散歩などで出会った方と挨拶を交わしたり、イベントを通じての触れ合いなどで、地域住民としての意識が根付いてきている。近隣の方がホームに気軽に立ち寄ってもらえる関係づくりの基礎が固まった時期でもあると思われるので、今後は近所つきあいを意識した活動に取り組んでいくことを望みたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) できていない	※	地域の高齢者等の暮らしに役立つ事がないかスタッフ全員で話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分に理解出来ていない。 (外部評価) ホームでの自己評価は回数を重ねており、その意義等は理解されている。職員ひとり一人が自己評価を行った上で、ユニット毎に話し合い、評価票を作成している。この作業を、ケアの質について話し合う機会と捉えており、有用に活用されている。	※	スタッフ全員でミーティングで話し合い具体的な改善に取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 家族より意見を聞きサービス向上に活かしている。		利用者一人一人が楽しく過ごして頂ける為にも塗り絵・ 散歩・ミニ体操等の他の楽しめる時間を増やすようにし ていきたい。
			(外部評価) 会議の開催ということで議題に苦慮しており、担当者 の話からも形式に重きを置いている状況がうかがえる。そ のため、利用者のケアの質向上に直結する話題がやや 少なく、地域との交流を深めるための会議になっている とは言えない。	※	運営推進会議の目的は利用者へのサービスの向上である ため、形式にとらわれず肩の力を抜いた開催を期待した い。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) できていない。	※	社会福祉協議会より講師を招きサービスの質の向上の為 にも勉強会を開いていきたい。
			(外部評価) 市担当者だけでなく、地域包括支援センターや市社協職 員など広範囲な機関との連携に努めている。新しい管理 者も福祉職としてのキャリアが長く、様々な関係者との 繋がりを持っていることから、更なる連携の強化が期待 できる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 2年前位に成年後見制度について勉強会を開いた。現在 の利用者には必要な人はいない。	※	学んだ知識を忘れず、ミーティングなどで話し合っ ていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 1年前に虐待の防止の勉強会を開いた、利用者さんの表 情・言葉に注意している。	※	皆が常に虐待の防止について研鑽していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ前に家族・ご本人に部屋を見て頂いたり、時間をかけて話し合い不安なことを尋ね、理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々のケアの中で聞き入れ全スタッフに連絡し情報を共有し対応している。	※	意見が言いにくい利用者さんに対して聞きだせる様に上手に声掛けしていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会によく来られるので健康状態はその都度報告している。金銭管理については月末に小遣帳のコピーを家族へ郵送している。こころ便りの新聞を家族へ郵送している。 (外部評価) 家族には、金銭出納帳の確認やホーム便りなどで利用者の暮らしぶりを報告しているが、細かなニュアンスが伝わりにくいことから、来訪時などのコミュニケーションに力を入れている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時など意見・苦情などを聞いている。全スタッフに連絡し話し合いをしている。 (外部評価) 家族からの意見や苦情等を聞くため、意見箱を設置しているが、実績はほとんどない。意見箱の設置は継続しているが、家族への報告と同様に、来訪時等に丁寧に話を聞くことを対応の基本としている。話し上手な職員が多く、家族が話を切り出しやすい雰囲気がある。	※	玄関に意見箱を設置しているが利用者さん全員の家族より不満など意見をもらえていない。意見を言ってもらえるように面会時などに上手に聞き出していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングなどで話す機会を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ユニット長がシフト作成し管理者・運営者が確認。決められたシフトの中、調整の必要がある場合は交代するスタッフが話し合い変更し柔軟な対応をしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ほとんど異動されていない。 (外部評価) 管理者や介護支援専門員の交代が多い傾向にあるが、職員の異動や離職者は少ない。管理者等の交代に関しては、ベテラン職員が利用者との間を上手く繋いでおり、日常生活に影響がでないように配慮している。	※	新しい風を吹き込む為にも（利用者の為に）1年に1回の異動をしたら良いと思う。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内を回覧している。 (外部評価) ホームは研修への参加を支援しており、職員も積極的に取り組んでいる。しかし、日常的な業務の中で育成、職員のスキルに応じて責任を分担していく取り組みが少ない。日々の業務を通しての職員の育成は重要な視点であるが、積極的に行われているとは言えない。	※	研修会に参加出来る様促していきたい。
				※	職員には中堅者も少なくなく、その視点をケアに活かすことは職員育成に繋がり、モチベーション向上にもなるため、介護計画の素案作成など責任ある職務を任せるなどの取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム同士の相互訪問研修を受けられた。	※	ネットワーク作りや勉強会を促しサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
			(外部評価) 同法人のホーム関係者とのネットワークが主となっている。その他の取り組みでは、地域包括支援センターが管轄内のグループホーム連絡会を立ち上げている。しかし、現在は取り組みが始まった段階であり、ネットワークが深まり、サービスの質の向上につながる取り組みがなされているとまでは言えない。	※	個々のホームの自助努力のみではネットワークの構築には限界がある。地域包括支援センターでの地域ケア会議等を通じたネットワーク構築等に取り組むことを期待したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 30分間 昼食後の休息をとりリフレッシュして頂いて、午後からの業務を行っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自が向上心を持てるよう助言している。	※	運営者には一人一人の努力をきちんと見て向上心を持てる様に声掛けをして頂きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者と話す時間を作り分かり合えるように努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の面会時に利用者さんの現在の様子等説明し希望など話し合いケアの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 話し合い・相談の中で出来る限り良い対応が出来る様に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用者の安心出来る生活の確保を第一と考え工夫している。 (外部評価) デイサービス等を行っていないため、見学後に即入居する場が多い。そのため、利用者が安心できる雰囲気づくりに力を入れている。職員が行うだけでなく、同じ生活者としての利用者との関係づくりも重要と考えており、その組み合わせなどに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 尊敬の念を忘れず、寂しさ・楽しさ等の気持ちを共有し、利用者の気持ちに寄り添い合える関係に努めている。 (外部評価) 職員はケアを通して利用者の歩んできた人生を垣間見ており、それぞれの人生観にも耳を傾けている。それが自分の生き方に影響を与えていることを実感しており、精神的なケアを受けている場合もあると感じている。しかし、これについて職員間での話し合いの場は少なく、共有できているとまでは言えない。	※	利用者から出されるSOSのサインを見逃さず支援していきたい。 利用者からの精神的なケアを感じるまでには、ある程度の期間や経験が必要になる。また、これらのことについて職員間で話し合う機会も少ないことから、共有が難しい。ミーティング時などで議題として取り上げるなどして、新任者に対するアドバイスや共有化に努めることを期待したい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時等一緒に食事を召し上がったり食事の介助をお願いしたり利用者も少しでもくつろげる時間を作っている。誕生日にはケーキを焼いて持参して下さったり、一緒にお祝いをされた。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の迎えで外出し買い物を楽しまれたり外食を楽しまれたりしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 元気な頃に行かれていた美容室に訪問して頂き散髪を行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 皆で声を掛け合ったり散歩や園内などで車椅子を押して下さったり、お互いに支えあっている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価)		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望やケアを常にミーティングで話し合っている。 (外部評価) 職員は利用者とのコミュニケーションを図ることをケアの重点に置いている。コミュニケーションとは、会話だけでなく利用者の仕草や表情などの情報も含めて捉え、それらを汲み取ることに努め、思いや意向を把握するケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面会時に家族より生活歴を聞いてミーティングなどで情報共有化している。		入浴時などリラックスして個別に話しを聞きだすように努めている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々のケアの中で表情・言葉に気をとめて観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティング等で話し合をし意見などを業務に反映させている。 (外部評価) 介護計画は全職員で話し合っているが、ユニット責任者の主導で行われている傾向があり、全員の意見や思いが集約されている介護計画とまでは言えない。	※	利用者のモニタリングなどは職員を担当制にしているため、介護計画の素案やモニタリングの集約なども担当職員が行ったり、ミーティングの進行を担当職員が行う等の取組みを期待したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) その都度必要に応じて介護計画の見直しをしている。 (外部評価) 介護計画は3か月ごと、また、急変等があった場合はその都度見直している。見直しのため、モニタリングのチェックを週1回ユニット責任者が行っているが、介護目標とチェック項目の関連がうすい面がある。また、評価は職員の主観が中心となっている面もあり、介護計画の具体的な評価になっているとまでは言えない。	※	介護目標と直結する記録となるよう介護日誌等の記載方法を見直すことを期待したい。介護日誌を時間軸に沿ったものに移行すると、視覚的な把握も可能と思われる。また、データ化することによって介護計画とも関連づけることが可能と考えられるので、取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアの実践をケアプランに取り入れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 1ヶ月に2回医療連携訪問を受け、集団・個別リハビリを受けている。 (外部評価) 単独のホームであるためハード面の機能が整っているとは言えないが、管理者が専任であることで利用者の受診支援や送迎などの細やかな支援を行えている。また、職員は利用者の認知機能の維持向上のために学習療法等に積極的に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員・警察の方等に運営推進会議に参加して頂いている。定期的にボランティアの方を招き様々な出し物をして頂き、楽しい時間を過ごしている。		消防隊員に来て頂き、利用者と一緒に救命救急の講習を受けた。利用者の家族による月1度の音楽コンサート
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の美容室と連携を取り送迎もして頂きサービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 包括の相談窓口で対応困難な場合や 市・県・病院・その他の相談窓口が分からない時等、電話にて相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望を大切にしかかりつけ医の往診や受診をする様支援している。 (外部評価) かかりつけ医は利用者の希望を優先している。医療面の支援は看護師が担当しており、専門的な連携もスムーズに行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医は認知症に詳しくその都度 助言・診断を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 何かあればすぐ看護師へ連絡し指示に従って対応・支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 家族・医者と話し合い早期退院された利用者がいた。退院後も医療機関と密に連絡をとり支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) かかりつけ医・管理者・看護師・スタッフで話し合い共有している。 (外部評価) 口から栄養を摂取できることをホームで生活する基準としており、職員はもとより家族等とも話し合いを行っている。また、身体的な介護については、医療的ケアが必要でない場合は、重度化しても共に生活を継続することを検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) かかりつけ医・管理者・看護師・スタッフにて「できること・できないこと」の話し合いを設けて家族の理解を頂いている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 管理者・看護師・家族で話し合い利用者が不安にならない様配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 常に尊敬の念を持って支援し個人情報の秘密保持に努めている。 (外部評価) 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、言葉かけや対応には十分注意している。また、個人記録類は専用の部屋で適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人らしく生活出来る様に声掛けし残存能力を活かした支援をしている。		本人の思いや・希望を表せる様、声掛けをし促す支援をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時間に関係なく一人一人のペースに合わせて生活支援している。 (外部評価) ホームとして一日の生活スケジュールはあるが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先するような支援を心がけている。外出の機会を多くすると利用者が積極的になったという実績を踏まえ、外気浴を重視している。		本人らしくその日をどの様に過ごしたいか一人一人に聞ける様、ゆとりを持って支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と一緒に行きつけの美容室へ行かされている。近所の美容室へ行ってパーマ・カラーをしたり、また訪問してもらってカット等してもらっている。		スタッフが本人の希望の色に毛染めをして差し上げ大変喜ばれている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スタッフも一緒に落ち着いた雰囲気ですべてしている。一緒に下ごしらえや下膳や洗い物をしている。嫌いなものがある場合は栄養に配慮しながら好きなものに交換し召し上がって頂いている。 (外部評価) 口から食べることで元気になるという思いのもと、利用者のペースに合わせて食事をしている。職員は多くの利用者へ声をかけることで、食事が楽しくなるような雰囲気づくりに努めている。他人の食事について箸を出してしまいう利用者にも、職員が間に入って否定せずにゆっくりと対応しており、ケアの専門性の高さが感じられた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人一人に聞いて希望に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 起床時・毎食膳後などこまめにトイレ誘導を行っている。尿意・便意がある方はその都度誘導支援している。		朝食後トイレ介助を行うと排便が出来る様になった。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望を聞き支援している。入浴剤を選んで頂き楽しい雰囲気を作っている。 (外部評価) 入浴時間は自由であるが、職員配置や利用者の希望などで慣習的になっている。入浴を嫌がる傾向のある利用者にも、あの手この手の工夫で入浴を促している。		曜日を決めて入られる利用者にも「いつでも入れますよ。」と声掛けし入浴を支援している。入浴拒否の利用者も電話対応(スタッフが家族になりすまし)にて穏やかに入浴を楽しめる様になった。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 疲れた様子や眠たそうにされてる時は自室へ誘導し休んで頂く。不穏な気持ちをなくし安心して休んで頂く様声掛けし支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 調理参加・行事活動参加を促したり、散歩・日光浴等を行っている。 (外部評価) 役割などを支援するために利用者の生活歴を重視しており、入浴や排泄、散歩など一対一で行う支援の際に積極的に生活歴を聞き取るよう心がけている。しかし、その内容はミーティングでの話し合いと介護記録に記載する程度で、職員全員が共有しているとまでは言えない。	※	仏様に朝は水昼はお茶を入れ替えれている。ホワイトボードに曜日を記入してもらっている。 職員は利用者の話を丁寧に聞きとっているため、情報は数多く持っている。情報は財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、専用のファイルなどで全職員が共有できるよう、記録用紙の見直し等に取り組むことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) パン屋さん来所持、自分の好きなパンを選び購入して貰う等 支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日はホーム周辺の散歩に行き鯉の餌やりを楽しんでいる。病院の受診の帰りや食材購入時に同行し買い物を楽しんでいる。 (外部評価) 利用者の生活のリズムを保つために、散歩などの外気浴を重視している。約3年前から外出の機会を多くもてるよう意識して取り組んだ結果、利用者がはつらつとしてきたことを実感しているため、外出支援については積極的である。	※	一人一人その日の希望にそって戸外へ出られるよう支援していきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ドライブにて桜の花を見に行ったり、苺狩・葡萄狩・五月展・菊花展へ外出する支援をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 寂しい気持ちになった時は家族へ電話し穏やかに過ごせるよう支援している。スタッフが代筆し家族へお手紙を出している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 時間に関係なく本人の自室やリビング「和の間」などでゆったりとお茶を飲みながら過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 家族より同意書を頂いてベット4点柵を使用している。 日中・夜間ともベットは底床にて対応している。		スタッフ全員が身体拘束をしないケアの知識をさらに深めて行きたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 目が離せない利用者は1階へ降りる時も外へ出る時もスタッフが同行している。 (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には施錠していない。 職員が協力しあって見守り、利用者の安全を確保している。		1階2階のスタッフ全員で見守り対応している。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 自室で休憩中はまめに訪問し安全確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の安全の為スタッフが預り対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故が起きた場合ヒヤリハット事故報告書に記入しスタッフ全員が情報を共有している。		ミーティング等で事故をおこさない様その都度話合っている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価)	※	ミーティング等で訓練をしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) ホームの隣には運営者の自宅があり、何かあればすぐ運営者が掛けつける対応をしている。 (外部評価) 消防署と連携しての避難訓練を年1回行っている。運営推進会議でも地域との協力体制を構築するため働きかけている。開設から6年目を迎え、地域の社会資源としての活動が求められる段階であるため、今後の検討が求められる。	※	ホームには高齢者介護の設備や専門スタッフが整っており、災害時の緊急避難場所としての役割を果たすことは地域の福祉拠点としては重要である。地域と良い関係が構築できているので、職員や家族を交えて話し合いをすすめていくことを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 何かが起こればすぐ家族に連絡し報告し家族と話し合い理解して頂いている。		起こりうるリスクについて家族に十分に説明していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 常に観察し異常があればNSかかりつけ医に連絡し記録しスタッフ全員が共有し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があればすぐ連絡ノート・介護記録に記入し情報共有している。お薬表に現在服薬中の薬を添付している。		薬の副作用については観察を行うようにしている。誤薬しない様スタッフの意識を高めて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人に合わせてヨーグルト・みかんを提供したり水分補給(牛乳)運動にて促している。トイレ介助時肛門刺激(シャワー)したり声掛けそで腹部に力を入れてもらっている。		入浴後など腹部マッサージを促して行きたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 起床時・毎食後・就寝前など口腔内を清潔保持に努めている。		毎週月曜日には歯ブラシ・コップ消毒・義歯の洗浄(ポリデント)している。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量には特に気をつけ補給を促し栄養摂取については健康状態に合わせて量の加減を行っている。 (外部評価) カロリー表などを参考に、栄養バランスに配慮した食事を提供している。口から栄養を摂取するというホームの基本的な方針のもと、刻み食やペースト食にも対応している。また、水分摂取にも配慮してチェック表を整備している。		水分を少しづつしか飲まない利用者にはこまめに時間をあけて飲んでいただいている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 毎日トイレのノブや手摺・廊下の手摺・自室のドアノブ等拭いて消毒を行っている。外出後にはうがい手洗を行っている。スタッフのマスクの着用を促す。		インフルエンザについてはスタッフ・外来者が持ち込まない事に重点を置いた取り組みをしたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材を点検している。毎夜に台所用品を消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花壇には四季折々の花を植え玄関には長椅子を置き和む工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに壁面を飾り、花を飾り居心地良く過ごせる工夫をしている。 (外部評価) ホームの造りは全体的にゆったりしており、利用者のくつろぐ場所が点在している。共用スペースに直結しているデッキも広く取られており、気軽に外気浴が楽しめる。また、テレビのコーナーがダイニングに一角に設えており、うまく空間を使い分けている。	※	有線放送を流すなど色々なジャンルの曲を流してみたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファでコーナーを作り、他の利用者さんと視線を合わせず過ごす事が出来る。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一人一人なじみの箆笥・ぬいぐるみ・鏡台・若かりし頃の写真・お位牌等置き居心地よく過ごせる工夫をしている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 起床時には窓を開け空気入れ替えを行っている。常に換気に留意し窓の開閉を行っている。一人一人に合わせて室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手摺・エレベーターの設置。ベット下には滑り止めマットを使用し工夫している。	※	トイレが狭い為、車椅子利用者には移動する際トイレのドアにあたったり危険である。カーテンを設置したりしている為ドアを取り外したい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱を防ぐ為、食事を一品ずつ出したり根気よくゆっくりと声掛けし、分かる力を引き出しながら工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 四季折々の花や木を植えており和める空間になっている。天気の良い日は外気浴も兼ねておやつをベランダで召し上がって頂いている。クリスマスイルミネーション設置。	※	ベランダにて家庭菜園を行いたい。ベランダに屋根をつけて雨の日でも外に出れるようにしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	一人一人の様子を観察し本人の会話の中からや個々の生活歴より思いや意向をくんだり情報を引き出ししている。個人差があり難しい面あり(コミュニケーションが取り組みにくい方)日々努力している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	業務に追われてスタッフに心のゆとりがなく、ゆっくりと過ごす時が取れない事がある。おやつや時間などコミュニケーションをとるよう心掛けたり、日光浴を楽しみながら歌を歌ったり穏やかに過ごすようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	一人一人に応じたケアをする様努めている。本人のペースではなく時には介護者のペースで過ごす時もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	ゆっくり丁寧に関わる事によって、みんな自然と笑顔になり表情が生き生きされている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	付き添いの関係上スタッフが不足して行けない時があり、その時はベランダに出たりホーム内外で散歩対応している。利用者の中には戸外へ出かける事が難しい人もおられる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	毎日スタッフが情報を共有し常に安全第一で統一したケアを日々努力している。かかりつけ医・看護師の指示のもと不安なく過ごせている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者全員の状況を観察し、日々要望を受け入れる様努力し支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	面会時や運営推進会議の時など家族と要望等話し合っている。家族の要望と本人の要望が違わないか調節が取れないケースがある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	地域の幼稚園やボランティアの方の慰問ある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	地域住民と地元の関係者の方たちとは運営推進会議の時しか会わず繋がりは深まっていないと思われる。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	元気な挨拶・笑顔で日々の業務を行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全部の希望に対して満足する事は難しいと思うが、日々の対応など努力している。不満を言われる利用者はあまりおられない。家族より利用者の不満を聞く事があり、その都度対応している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	よく面会に来られ笑顔で帰られるので満足されていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・「食べる」ことの楽しみを持ってもらう様 運営者が釣ってきた新鮮な魚や野菜の提供。・利用者が楽しめる行事活動（音楽療法・お話の会・クリスマス会・お誕生会・苺狩り・葡萄狩り・医療連携訪問など）・ボランティアの慰問（トキアンサンプルさんのコンサートなど）